

# 私学の魂

横浜富士見丘学園  
中等教育学校

## 優しく和やかな校風と安心な環境で 自己の存在意義と成長を確かめながら 自らの“幸せ”を創造する力を育める 女子の特性を生かした中等教育学校

かつて横浜市西区で、80年以上にわたって、堅実な教育で信頼を集めてきた富士見丘中学・高等学校が、現在の旭区中沢の地に移転し、新たな学び舎として生まれ変わったのが2007（平成19）年。神奈川県央地区の交通の要衝でもある相鉄線「二俣川駅」から徒歩15分の高台に位置する、緑に囲まれた美しいキャンパスと校舎のなかで、将来への夢と、そこにつながる学力、人間力を育み、女性として生きる“幸せ”の素地を築くことができるのが、この横浜富士見丘学園中等教育学校です。

キャンパスに足を踏み入れると、そこは独特の優しい空気で包まれ、優雅な赤レンガの外観を持つ校舎のなかは、木の温もりと香りを生かした心優しい空間。この恵まれた環境に、健全で温かな家庭で育った気質の良い生徒が集い、日々ワクワクできるような楽しい学校生活を送っています。いま、さらなる発展の時期を迎え、国際化社会のなかで活躍できるスキルを身につけるための新たな教育プログラムが導入されていることに注目し、昨年からは校長に着任している松田由紀子先生にお話を伺いました。



校長  
松田由紀子先生

### 横浜富士見丘学園中等教育学校

DATA  
1

沿革 1923年 横浜市野毛町に前身の「日の出女学校」創立  
1924年 関東大震災のため横浜市西区東久保町に校舎を新築移転  
1932年 校名を「富士見丘高等女学校」と改称  
1947年 学校改制で「富士見丘中学校」設置認可  
1948年 学校改制で「富士見丘高等学校」設置認可  
2007年 現校地に校舎移転。「横浜富士見丘学園中等教育学校」設立

校長 松田 由紀子

所在地 神奈川県横浜市旭区中沢 1-24-1  
TEL : 045 (367) 4380  
<http://www.fujimigaoka.ed.jp>

交通 相鉄線「二俣川」駅北口から徒歩15分

## 伝統ある私学が多い横浜エリアで 新たな女子教育の価値を創出する 期待のかかるニューブランド校

いまから7年前の2007年4月、横浜の中心部と県央地区をつなぐ二俣川の地に校地を移転し、日本初的女子中等教育学校として、新たな歴史をスタートさせた横浜富士見丘学園中等教育学校。

この地に新キャンパスを開設し、私学ならではの個性的な設計思想による美しい校舎を完成させた横浜富士見丘学園中等教育学校には、小学生と保護者とはもとより、中学受験に関わる塾関係者からも大きな期待と注目が寄せられました。

神奈川県、とくに横浜の中心部は、東京の都心部や兵庫県の神戸と並んで、全国で最も早くから私立中高一貫校が高い評価を集めてきたエリアです。その地域で、長い歴史を刻んできた横浜・山手地区の著名な女子ミッション・スクールや他の私学とはまた違った、新たな女子教育の価値を創出してくれる私立中高一貫校として、この横浜富士見丘学園中等教育学校に期待が寄せられたといってもいいでしょう。

その“新生・横浜富士見丘学園”の教育の成果が、広く世に知られることになったのが昨春2013年の春でした。同校の新たな中高6年間一貫教育の、初めての卒業生である中等教育学校の第1期生を送り出したこの年の大学合格実績は、国立大の東京工業大学をはじめ、早稲田、上智、東京理科大に合計9名、GMARCHには合計21名、学部・学科別では理工系学部70名、医歯薬・医療系学部30名の合格者を出すなど、当初の期待に応える成果を見せてくれました。

昨春から横浜富士見丘中等教育学校の校長に着任した松田由紀子先生は、この大学合格実績について「第1期生は6年間で飛躍的に成績を伸ばし、見事合格を勝ち取りました。2期生にあたる今年の高3生も先輩たちの活躍に非常に大きな刺激を受け、それを自信に感じています。きっと昨年以上の成果を見せてくれるのではないかと考えています」と述べています。

この松田由紀子校長は、かつて神奈川県立高校の校長として高校改革に関わり、その後、自身の母校である実践女子学園中高の校長として招聘され、「学力改革」「キャリア教育」「国際交流教育」「感性表現教育」を柱とした、現代に求められる新たな女子教育への改革のリーダーシップを取り、現在の実践女子学園の礎を築いてこられた方です。

横浜富士見丘学園中等教育学校が、新たなスタート

から6年目を迎えた昨年、この女子教育のパイオニアである松田由紀子校長を迎えたということは、今後のさらなる進化・発展を期して「次のステージ」に向かう段階に入ったということなのでしょう。

## 女子の教育に大切な 安心感・信頼感・団結力をバネに、 “自らを幸せにする力”を育てていく！

同校が今後も女子の進学校として、卒業後の進路やキャリア形成をしっかりと実現していくためには、何よりも一人ひとりの生徒が「楽しく学校に通い」「安心して学べる」環境のもとで、自身の価値や日々の成長を実感できる学校でなくてはならないと松田校長は考えています。

松田先生が、同校の校長に着任して最初に感じた魅力は、在校生や教員の「互いに信頼する力」、「団結する力」の強さだといいます。「『信頼する力』が強いとは、生徒たちのために全力を傾ける教員に、常に感謝、信頼しているということ。そして『団結する力』は、生徒が互いを支えあい、目標の実現を目指して、学校全体で課題をクリアするということです。団体戦の趣を強くしている昨今の大学受験状況の中で、この校風は非常に大きな支えになります」と松田先生。

これは多くの学校行事や、ダンスやチャリーディングなど数々の部活動での活躍ぶり、毎日の学校生活を過ごす在校生の明るい表情にも表れています。また、多くが最寄りの「二俣川駅」から徒歩で、近隣の商店街～住宅街を登下校する同校の在校生は、その明るい礼儀正しく振る舞いで、地域の人々にも愛されているといいます。

そうした女子教育にとって望ましい環境を整えていくためには、女子の特性をきちんと理解し、それを実現することが大事だと松田先生は言います。

「女子生徒のやる気を導くためには『心理的共感性』



何よりも“楽しく”学校で過ごせることが女子には大切

を引き出すことが大事だと私は考えます。女子は批判よりも同調することを、勝ち負けよりもみんなで守ること・助けることを優先します。奉仕や倫理的な価値に共感するのも男子よりも女子のほうが強いのではないのでしょうか。本校では教員が単に教え与えるのではなく、自分で選び、学びとる力を身につけさせ、全体指導よりも個別指導、説得よりも納得、さらに叱るよりも褒める教育に取り組んでいます。自尊心や小さな優越感を尊重することも女子には大切だからです。女子の特性を熟知して、学ぶ目標・意欲を明確にして、“自らを幸せにする力”を育てていくことが私たち教員の使命だと思っています」と、松田校長は着任以来、強調し続けています。

## 女子の特質を生かしたキャリア教育と、英語教育の充実を2本柱に、国際化社会で活躍できる人間力とコミュニケーション力を育む。

そうした女子の心理的共感性を引き出し、納得して前に進ませるために、横浜富士見丘学園では様々な取り組みを行ってきましたが、さらに松田校長は着任後、あらためて二つの(右図の)課題を掲げました。

まず、Iの『将来の職業選択を可能にする大学教育への接続』という課題への取り組みとしては、生徒自身の自己啓発の取り組みや、課題解決学習・探求型学習を体系的に整備した「キャリア教育(=女子の特性を生かした教育として有効)」を1年生から4年生まで導入し、自ら目標を設定し、自ら学ぶことのできる生徒の育成をめざしました。

とくに、「中高6年間の教育の成否は中1、中2の2年間で決まる」ともいわれる最初の2年間に重視し、

### 女子教育のあり方

～心理的共感性を大切に～

- ①「全体指導」ではなく「個別指導」
- ②「説得」ではなく「納得」
- ③「先生が教える・与える」ではなく「自分で学ぶ・選ぶ」
- ④「叱る」より「ほめる」「認める」
- ⑤「批判」より「同調」
- ⑥「勝ち負け」よりも「皆で守る・助ける」
- ⑦「奉仕」「倫理的価値観」に共感
- ⑧「自尊心」「小さな優越感」を尊重する
- ⑨「身近なモデルがいると自分も頑張れる」
- ⑩「その気になれば、自分で伸びる」

1年生による『自分と家族・学校についての探求学習』の取り組みでは、自尊心を高めることと、自己の有用感と親和的行動力を高めること、1・2年生による『社会的能力を自ら獲得する探求学習』の取り組みでは、“より良く生きる力”を身につけるために、コミュニケーション力、自己コントロール力(将来設計能力)、判断力、公共心・道徳的行動力、自立的行動力、人間関係力を育てることに重点を置いています。

Ⅱの「国際化の中で活躍しうる高いコミュニケーションスキルの獲得」という課題への取り組みとしては、まず、1年生からの『コミュニケーションスキルとしての英語教育』では、「聞ける」「話せる」英語の楽しさを追求します。一方で、予習・復習の定着が図りやすく、学習量がすぐに成績に反映し、努力の成果が自覚しやすい英語を家庭学習の中心として位置づけることで、他教科にも良い影響が波及することを期待します。

1年～5年生の希望者を対象とした『マン・ツー・マンによる英語研修』では、各学年の春休みに、フィリピン・セブ島での2週間の生活と英会話研修を行い、リスニング・スピーキングの力の向上を期しています。ここでの文字通り「1対1」の英会話研修は、すでに英語の短期習得の手段として世界中から研修生が来るほどですが、とくに吸収力の旺盛なこの世代の生徒には、驚くほどの効果が見られるといえます。

このほか、4年生の選択必修として行われる『選択制による英語研修』では、4年生の7～9月にオーストラリア・アデレードの州立学校で(約2ヶ月～3ヶ月)実施する「海外中期留学」、4年生の7月にやはりオーストラリア・アデレードに(10日間)行く「海外修学旅行(\*検討中)」、4年生の7月に福島県・プリティッシュヒルズに(1週間)行く「英語村研修」など、多彩なプログラムから個々が選んで体験することができるようになっています。

これらの英語教育のプログラムには、英語が人間関係を結ぶうえで有用な手段であることを、すべての生徒に理解させ、英語を教室内のもの、単なる勉強の対象という意識を払拭させたいという、松田校長の願いが込められています。



みんなで課題に取り組み、団結できることも女子校の魅力(左)最近、活躍が目覚ましいダンス部(右)

## 横浜富士見丘中等教育学校／二つの課題と具体的取り組み

I 将来の職業選択を可能にする  
大学教育への接続

II 国際化のなかで活躍しうる高い  
コミュニケーションスキルの獲得

### 課題Ⅰの取り組み

中高6年間の継続性、一貫性という中等教育学校の長所を活用した効果的・効率的な学習に取り組む。

### 課題Ⅱの取り組み

生徒全員が日常生活レベルでは英語が活用でき、苦手意識を持たずに卒業（英語検定準1級を目標とし、少なくとも生徒全員が英語検定2級を取得）することを目標とする。基本的には「英語による英語教育」。

### 体系的キャリア教育の構築

- ① 自分と家族・学校についての探求学習（1年生）
- ② 社会的能力を自ら獲得する探求学習～生きる力～（1・2年生）
- ③ 日本・世界を知り、自らの貢献を考える探求学習（2・3年生）
- ④ 仕事・職業・女性の生き方を考える探求学習（3・4年生）
- ⑤ 大学・学部研究と自律的・自立的受験勉強を促す取り組み（4・5・6年生）

### 英語教育を中心とした異文化交流の推進

- ① 1年生からのコミュニケーションスキルとしての英語教育の実施
- ② マン・ツウ・マンによる英語研修の実施（1年生～5年生の希望者）
- ③ 選択制による英語研修の実施（4年生・選択必修）
- ④ 日本文化についての教養を深め、それを体得する稽古事の実施
- ⑤ 日本文化として継承されている稽古事（茶道・華道・仕舞いなど）に取り組む

また、各教科の指導面でも、昨年からリニューアルした補講も、教科担当の教員と生徒との信頼感を支えるに継続され、ここでも横浜富士見丘学園の守り育ててきた「互いに信頼する力」、「団結する力」が、良い方向で生かされています。

さらに、昨年度は試行的に導入した「4年生（希望者）による1年生へのチューター指導」も好評で、面倒を見てもらう1年生にとってはもちろん、教える側の4年生にとっても期待以上の効果があったと、松田先生は、大きな手応えを感じています。

こうした新たな指導の工夫やプログラムの成否は、わが子の学校生活を見守り、サポートする保護者の理解や見識によるところも多いのですが、「この横浜富士見丘学園の生徒の保護者には、そうした教育に理解を示し、期待と協力をしてくださる親御さんが多いので、その点でも恵まれていると思います」と松田先生。

同校が一貫して守り育ててきた文化遺伝子（ミーム）ともいえる、そうした和やかさと相互理解が生む雰囲気、松田由紀子校長のめざす女子教育の成果を花開かせるための、力強い後押しにもなっているのです。



木の香りと温もりが居心地の良い空間をつくっている

### 2013年大学合格状況・抜粋

DATA  
2

|        |   |        |    |            |    |           |    |
|--------|---|--------|----|------------|----|-----------|----|
| 東京工業大学 | 1 | 学習院大学  | 2  | 神奈川大学      | 16 | 東京農業大学    | 4  |
| 早稲田大学  | 2 | 成蹊大学   | 1  | 東海大学       | 19 | 芝浦工業大学    | 1  |
| 上智大学   | 4 | 成城大学   | 2  | 東京薬科大学     | 5  | 津田塾大学     | 1  |
| 東京理科大学 | 3 | 明治学院大学 | 4  | 明治薬科大学     | 3  | 日本女子大学    | 2  |
| 明治大学   | 3 | 日本大学   | 10 | 星薬科大学      | 1  | 学習院女子     | 2  |
| 青山学院大学 | 4 | 東洋大学   | 6  | 昭和大学       | 1  | フェリス学院大学  | 5  |
| 立教大学   | 3 | 駒澤大学   | 9  | 武蔵野大学      | 2  | 大妻大学      | 7  |
| 中央大学   | 8 | 専修大学   | 10 | 東京女子医科大学   | 1  | 実践女子大学    | 13 |
| 法政大学   | 1 | 國學院大学  | 5  | 日本獣医生命科学大学 | 1  | 東洋英和女学院大学 | 21 |